

<コーディネーター・支援員養成講座>

今まで協会は戦略的にワークス・コレクティブ経験者や生活クラブの活動歴のある人に声をかけてスタッフを募集してきました。今回初めて、養成講座という形でスタッフを募集するとともに、就労支援について関心のある人が参加しても良いような組み立てにしてみました。

カフェぼらんに近いエリアの生活クラブ組合員にチラシを配布し、10月1日、8日の2回連続講座で開催、13人の参加がありました。1回目の講座では、「ワークス・コレクティブとは」「ワークス・コレクティブの就労支援の取り組み」「生活困窮者自立支援制度」の3講座、2回目は「横浜市就労準備支援事業について」「コーディネーターの役割」「事前講座の意義・目的と支援員の役割」、そして実際に実習生との対応についてロールプレイを体験してもらいました。

就労支援というと障害者支援のイメージをもっている方が多く、2015年から始まった生活困窮者自立支援制度や協会と生活クラブが就労準備支援事業を受託していることも始めて知ったという方がほとんどでした。私には意外だったのが、2回目の具体的な話しの方が良かったという感想が多かったです。横浜市就労準備支援事業の説明では、コーディネーターの仕事をイメージしてもらおうと、区役所から申し込みが来て、どんなことに協会が配慮して事業所を決定しているか、振り返りのこと、実習先紹介までかなり具体的な話しをさせてもらいました。そういえば、協力事業者懇談会でも、「どうして協会にはそんなに支援が必要な人が集まるのか」という質問が多く出ます。「制度を受託しているからです」と説明していましたが、具体的に申し込みの流れを話した方が理解しやすいということがわかりました。 (松川 由実)

第1回 2019年10月1日(火)

「ワークス・コレクティブとは」

ワークス・コレクティブ 協会の就労支援の活動

困窮者をめぐる情勢と生活困窮者自立支援制度

参加者 10名

第2回 2019年10月8日(火)

「横浜市就労準備支援事業について」

実習先のスライド紹介

「コーディネーターの役割について」

「事前講座の意義・目的と支援員の役割」

受講生同士で、交互に事前講座アンケートをとる。

参加者 12名

♪参加者の感想から

- 生活困窮者の存在が社会の中に広がっていることを知った。年齢層やニーズが人によって違うので、支援の方法にも柔軟性が必要だと思った。自治体によって支援方法が異なることや、横浜市の支援についても初めて知った
- 就労支援というよりは、その方の人生、生き方を支援する事（改革）なので、とても大変な印象を受けました。
- 沢山新しい事を学びました!!
そして引きこもりや生活困窮者と呼ばれる人が幅広い年代にわたっている事が心に残っています。

